

Contents

- 新学部長就任あいさつ
生産工学部らしさの創造と実践……………2
- 特集 新旧学部長スペシャル対談……………4～7
- 『初年次・2 年次ゼミ』、『出席管理システム』……………8
- 2013 年度 就職状況の概要……………10
- 学科ニュース……………11～15
- 連載 卒業生インタビュー……………16
(株)メーシック 工事部 窪井 恵さん
- 「生産工学部創設 60 周年記念事業募金」
寄付者ご芳名……………18
- CAMPUS NEWS……………19
- 平成 25 年度学位取得者一覧……………19
- 新任教員紹介……………20
- CAMPUS EVENT NEWS……………22
- 平成 26 年度 行事予定 (後期)……………23



表紙：平成 26 年度日本大学生産工学部スポーツ大会
での玉入れ競技の様子



日本大学生産工学部
学部長
落合 実

本年 4 月 1 日より、松井勇前学部長より引き継ぎ、生産工学部長に就任致しました。どうかよろしくお願い申し上げます。

現在、大学を取り巻く環境は、極めて厳しい状況が続いていると言わざるを得ません。特に18歳人口は2014年の約119万人から2022年には約14万人減の約105万人に減少します。

このような中で、生産工学部は「魅力あふれる大学づくり」をさらに推進し、実現することが必要であり、さらなる「生産工学部らしさの創造と実践」が必要不可欠であります。

大谷元学部長、石井元学部長、松井前学部長が種々の改革を実践してこられた今日までの基本方針を継続した上で、学生の目線に立ちながら大

生産工学部らしさの創造と実践

学全体の総合力とスケールメリットを視座に置き、7つの柱で構成した「生産工学部らしさ」を創造するさらなる改革を行います。加えて、「女子学生の割合を30%」にすると共に、「受験生を10,000人」にするためにも、教職員一体となって適切に改革を実践し、学部運営を進めていきたいと考えています。



「生産工学部らしさの創造と実践」を支える7つの柱の第一の柱は「大学の教育・研究環境と指導体制の充実」です。多様な志向の学生に適切な教育メニュー、教育システム、教育環境をさらに構築すること。退学・留年生を減らす教育システムを確立すること。生産実習(インターンシップ)先の確保を拡大し、就職支援をより充実すること。学生中心の大学として学生サービス支援をさらに行うこと。また、教員にとって研究・教育が行いやすい環境を構築すること。教育・研究の成果がより社会から認められ、より高く評価される環境づくりと支援を行うこと。

第二の柱は「新学科設立と検討」です。少子化および大学全入時代、特に18歳人口の激減に対応した生産工学部独自の教育体制を確立するために学科の新設を検討すること。

第三の柱は「カリキュラムの適正化」です。本学部創設時からの特色である生産工学系科目を主体とした、さらなる実学教育を重視すると共に多様な志向の入学生に対応した生産工学部独自のカリキュラムを設定すること。

第四の柱は「大学院教育・研究の充実」です。学部・大学院の連携教育をさらに行うこと。生産工学系科目を主体としたカリキュラム体系をより充実すること。専攻間で教育・研究が相互に行える本大学院独自のシステムを確立すること。大学院

入学志願者を増加させること。

第五の柱は「キャンパスの更なる整備」です。個性と魅力あふれる生産工学部らしいキャンパスの形成を目指すこと。現状把握を的確に行った上で、アカデミックプラン(教育・研究・社会貢献)と経営戦略に基づく実効性のある取り組みを行うこと。

第六の柱は「社会・地域貢献の更なる推進」です。大学での研究成果や大学の資産を社会や地域そして企業への支援に役立たせ、産学連携・共同研究を積極的に推進すること。

第七の柱は「海外学術交流の推進」です。アジアを中心に生産実習(インターンシップ)を含めた協(共)同研究・協(共)同教育への取り組みをさらに推進すること。国内外における異文化交流を促進すること。

以上、7つの柱を実践するために、これまでに進めてきた施策に加え、教職員で構成する種々の委員会からの施策を生かすことにより「生産工学部らしさ」を創出し、「たくましい学生」を育て、「魅力あふれる大学環境」が生み出されると考えています。



生産工学部では単なるモノづくりではなく、社会において必要なものを安全で高品質に、そして環境に配慮して適正なコストで社会に供給するという一連の生産活動をトータルで考えることができる管理技術者の養成をめざしています。そのため、学部の基盤である「教育力」、「研究力」、「就職力」、「組織力」、「財政力」の充実をはかると共に、教職員の協力、校友会の協力を得て、学部が一丸となって「生産工学部らしさの創造と実践」を行っていく所存でございます。さらなるご理解とご協力を賜われますよう、心よりお願い申し上げます。

特集 新旧学部長スペシャル対談

学生一人ひとりに向き合い、学生の目線に立った大胆な改革を断行しながら親身の学生指導に取り組んでこられた松井前学部長が、3月で任期を終え、落合新学部長と交代されました。

松井前学部長とバトンを受け継いだ落合新学部長。今回は、そのお二人に、これまでの取り組みの成果や残された課題、そして、さらに魅力ある生産工学部をつくりあげていくために必要なことなど、その熱き思いを語っていただきました

マネジメント能力を有する技術者育成こそが生産工学部の原点。研究も教育もすべてはそこに結び付けるために



日本大学 生産工学部 前学部長
工学博士

松井 勇（まつい いさむ）



日本大学 生産工学部 新学部長 落合 実（おちあいみのる）

PROFILE

昭和 51（1976）年 3 月 日本大学生産工学部土木工学科卒業
昭和 53（1978）年 3 月 日本大学大学院生産工学研究科博士前期課程土木工学専攻修了
専門は海岸工学、水理学 千葉県出身。60歳

■志願者増は女子学生が来やすい キャンパスづくりから

落合新学部長（以下、落合）：松井先生、長い間ありがとうございます。この3月までの4年間、どんな思いで学部長をお努めになっておられたのか、振り返っていただけますか。

松井前学部長（以下、松井）：まず取り組

んだのは志願者を増やすこと。私が学部長に就任した当時は、18歳人口も減って志願者が少ない状況でした。

そんな状況下で志願者を増やすためには、とにかく女子学生を増やす必要があるだろうと。そこで、最初に手を付けたのが女子学生が来やすいキャンパスをつくること。花壇を造ったり、トイレにはウォ

シュレットを備えたり。最近は、トイレと言わずに「パウダールーム」と言うそうですが（笑）。

落合：学生生活の向上につながるような取り組みが多かったですね。

松井：「ものづくり」ということで、「学生ものづくりプロジェクト」を立ち上げて、学生がグループで、イスやゴミ箱を造った



りもしました。これは学生にもそういうプロジェクトに参加しているんだという意識を持ってほしかったからです。

落合：キャンパスジョブ、という制度も出来ました。

松井：キャンパスの清掃ですね。学生は学校が終わってから、わざわざ東京や千葉など遠くへアルバイトに行きます。そのアルバイトを学内でやれないうかということで、このキャンパスジョブを始めました。

最初は少し心配しましたが、学内に入っている清掃の会社をお願いして実際に始めてみると、学生はちゃんと規定通り朝7時前に来て教室などを掃除し、9時に終わって授業を受ける。その作業を通して学生の帰属意識も高まるし、もちろんアルバイトに行き来する余計な時間も取られなくて済む。一挙両得でしたね。

落合：あれはいい発想でしたね。図書館や食堂などいろんなところに広がって、今も少しずつ増えています。今後もどんどん増やしていこうと思っています。

■きめ細かい少人数教育で学生を フォローアップ

落合：ピアサポーター制度も画期的でしたね。1年生10人に先生を1人、それに先輩の学生もつける。

松井：3年生になればゼミナールという必

修科目があって教員1人で10人の学生、4年になると卒業研究でこれも教員1人が大体10人ぐらいの学生を面倒みます。しかし、1年、2年のときはそういうシステムがない。クラス担任はいても、3～4人の教員が100人ぐらいをみますから、学生一人ひとりとのコミュニケーションを図るのは難しい。目が届かない学生が学校に来なくなってしまうケースもあります。そこで、1～2年時に教員と先輩学生が注意深く見守ってやれば、3年、4年につながります。つまり、きめ細かな少人数教育、その最たるものです。

落合：「めんどろみ一番」ですね。これは私もずっと続けていきたいと思います。松井：あまり専門的な話ではなく、「どんなことやっているんだ？」程度の日常会話からでもいいんです。

日大はマンモスだとよく言われます。たしかに学生数は多い。でも教員も多い。学生数を教員数で割ると、教員1人に対し学生十数名です。だから、本来、国公立と同じようにきめ細かな教育ができるはずなんです。

■幅広い知識を持った技術者が育 つ大学院に

落合：先生は大学院改革にも力を入れられましたね。

松井：生産工学部で大学院教育ができる

ようになったのは昭和42～43年からです。以来、四十数年のあいだに各専攻で何人ドクターを出したかを調べました。そうしたら、専攻によってドクター修了生に大差があった。これは大きな問題です。カリキュラムを含めた大学院改革の必要性を感じました。もっとものづくりに寄り添った実務的な教育というのかな、そういう教育が大学院でも必要だという気がして、大学院の授業をガラッと変えました。今までになかった教養系の科目を入れたり、と。

落合：教養の先生が入られたのはいいことですね。しかも若い先生が入られて、非常にいい形になってます。

松井：私の研究室に来る大学院生は、私としか会わない。それじゃいけない。複数の先生が指導するようにしないと。例えば、落合先生と私が、1人の学生を、1つのテーマで1週間交代でみる。そういう複数体制指導が必要です。企業は幅広い知識を持った学生が欲しいわけですから。

落合：今、文科省が推し進めているのも、異分野の人、他分野の人といっしょにプロジェクトを組んで勉強をするというスタイルです。実は、それを一番やりやすいのが大学院なんですよ。

方法としては、先生がさっきおっしゃったように、複数の先生が携われるような

特集 新旧学部長スペシャル対談



慶尚大学、全南大学工科大学（韓国）や中国科技大学（台湾）など海外大学との学術提携を積極的に推進しました。



生産工学部の基本ビジョンであるものづくり精神の拠点となる、創設 60 周年記念棟 39 号館が完成。



ノーベル化学賞受賞者、根岸英一氏の講演をはじめ、各学科のホームカミングデー祝賀会など盛大に創設 60 周年記念行事がおこなわれた。



環境安全工学科、創生デザイン学科の拠点棟 40 号館が完成。大学としては最大規模の LINC5 など、研究施設の充実を計りました。

システムをつくる。副査には必ず他分野の先生を入れなさいとか。そういうソフト的なところから少しずつ変えていって、今の生産工学演習なりをもう少し充実させていくような形もいいかもしれません。将来的には卒業研究などもそうなるんだと思いますね。

松井：私も、複数指導を提唱した以上、修士の学生を他学科の先生にもみていただいています。私自身も緊張します。修論の概要なんか、これをほかの先生も読むと思うと、いつもより熱が入ります。学生だけでなく、先生方にとってもいい

刺激になりますね。

■学業から文化まで。さらに深めていきたい国際交流

落合：英語力も必要ですね。そういう意味では国際交流ですが、台湾の中国科技大学との交流も進展して、いい方向に行っていますね。

松井：私が学部長になったころ、ほかの学部は海外のいろんな大学と提携しているのに、生産工学部はケント州立大学（米国オハイオ州）の語学研修だけでした。これじゃあいけないと思いました。

しかし、海外交流といっても、いざとなるとどの国のどの地域がいいのか。日本は、戦後、アメリカやヨーロッパという先進国から技術導入し、ものづくりに対して指導を受けて技術的に世界のトップクラスになった。今度は日本が開発途上国に支援しなきゃいけない。だから、東南アジア、あの辺のベルト地帯の大学と提携して日本が技術指導をすべきではないか。そんな発想から行きついたのが、中国科技大学でした。向こうも乗り気で、決断も早いんですよ。今、おかげさまで中国、台湾、韓国から学生が来たり、大学院生、ドクターも 1 人入ってますね。

落合：台湾は向こうが積極的ですので、これからはこちらもアクションを起こして、向こうに行く学生を増やしたい。今、夏のインターンシップをお願いしていますが、それ以外にも、違う意味の交流。つまり、勉強ばかりではなく、文化的な交流もいいと思いますね。せっかくベースの協定をつくっていただきましたので、いろんなところで交流していきたいと思います。

そのほかミャンマーなどとの交流も進めていきたいと思っています。

■女子学生が増えれば発想も豊かになる

落合：4 月の学部長就任時の所信表明で、私は「女子学生 30%」という大きな目標を掲げました。本当に女子学生の比率を高めていかないといけないと思います。

松井：今は「リケジョ（理系女子）」の時代ですからね（笑）。女性だって技術を身につけて仕事をしたいという意欲は非常にあります。今、生産工学部は女子学生が 12 ～ 13%。それが 30%になればキャンパスも明るくなるでしょうね。

落合：まずできることは就職先をきちんと確保すること。やっぱり出口を広げておかないと学生も入って来ませんから。以前、

先生に土木に女子コースというのはどうだろう、と訊かれたことがありました（笑）。松井：土木は、橋などを造るばかりじゃなくコンサルタントなんかもあると聞きましたからね。

落合：役所もあります。土木だけじゃなく、ほかの専門でも役所があります。そういうところに就職の実績をつくっておけば、入る人は安心します。ですから、まず出口をつくって、それから PR でしょうね。さっきの話に戻りますが、トイレをきれいにするとか。

松井：今後は、結婚して子どもができたという学生だっているかもしれない。そんな学生のためには、学内に託児所も必要でしょう。

落合：私も、それいいと思います。託児所をつくって、主婦も来てください、と。そして託児所のスタッフはキャンパスジョブで。

松井：女性の教員も、もっと必要でしょう。落合：雑談で女性の先生方から、「教員も女性 30%ですか」と聞かれました。女性教員 30%は難しいかもしれませんが、少なくとも 1 割は必要でしょう。

松井：女性と男性では、ものの見方が違いますからね。よくコップのたとえ話をしますが、コップは上から見ると丸だけど、横から見ると四角。見方によって丸でもあれば四角でもあるわけです。例えば上から見るのが女性の発想で、横から見るのが男性の発想かもしれません。見方が違えば見え方も違いますが、見ているものは同じ。人は往々にして自分が見たものが正しいと思っていますが、実はいろんな見方があるんだと知るのも大事なことです。

■生産工の原点回帰が地域貢献の可能性も広げる

落合：生産工学部をあらためて定義し直すことも、先生からの引継ぎの大きなテーマの 1 つです。

松井：生産工学部とは何なのか、それをはっきりさせる必要がありますね。最初は、「中小企業を支援する若者を育てる」のがうちの仕事、それが役目とはっきりしていました。ところが、いつの間にか「中小」という言葉がなくなり、学生も親御さんも「就職は大企業に」と言うようになった。もう一度、うちの原点を思い起こさないといけません。

落合：私も原点に立ち返ることが大事だと



思います。世の中をつくっているのはほとんどが中小企業です。

松井：実際、大手で働いている人はわずか約 6 ～ 7%。残りの九十何パーセント、つまり労働人口のほとんどは中小企業で働いています。

落合：もちろん大企業に行くのも結構ですが、みんながそこを狙う必要はありません。むしろターゲットは中小企業。縦割りの大企業と違い、一から十まで知らない仕事ができない中小企業の技術者を育てることこそうちの使命です。本来、中小企業には「優れた技術集団」といういいイメージがあります。あらためて「うちは中小企業」と打ち出し、そのための研究や教育はどうすべきか。そこへ結び付けていくことが大事でしょうね。

松井：十分にできなかったことが地域社会や地域企業との交流です。先生にはぜひ、それを。

落合：地域に対する社会貢献には力をいれてやっていきたいと思っています。これは PR 活動、とりわけ、役所さんに PR して

いくことが大事なのかなと思っています。5 月には習志野市さんと包括協定を結びました。その中で地域の中小企業さんと組めるものもあると思います。

松井：今、うちには工房棟もありますから、いっしょに何か新しいものをつくったりしてもらうといいですね。高価な 3D プリンターなんて普通の中小企業さんにはない。そんなのもうちにはありますからね。

落合：船橋市さんや千葉県さんともやりたいと思っています。災害協定などいろんな協定ができますので。

そういったことを 1 つ 1 つ実現していくためには、先生方全員にご協力いただかなければいけません。実は、受験生 1 万人、女子学生 30%。この目標を掲げ、各委員会に、そのために自分たちがすべきことは何かを考えていただいています。

で、その結論はなるべく早く、1 ～ 2 カ月後には出していただく。そういうスピード感を持ちながら、今まで 60 年間、多くの先生方に築いていただいたルールに乗ってやっていきたいと思っています。

『初年次ゼミ・2年次ゼミ』、『出席管理 システム』

■ 18歳人口の減少と50%前後の大学進学率の頭打ちにより、大学志願者および進学者が減少するといわれる“2018年問題”は大学にとって

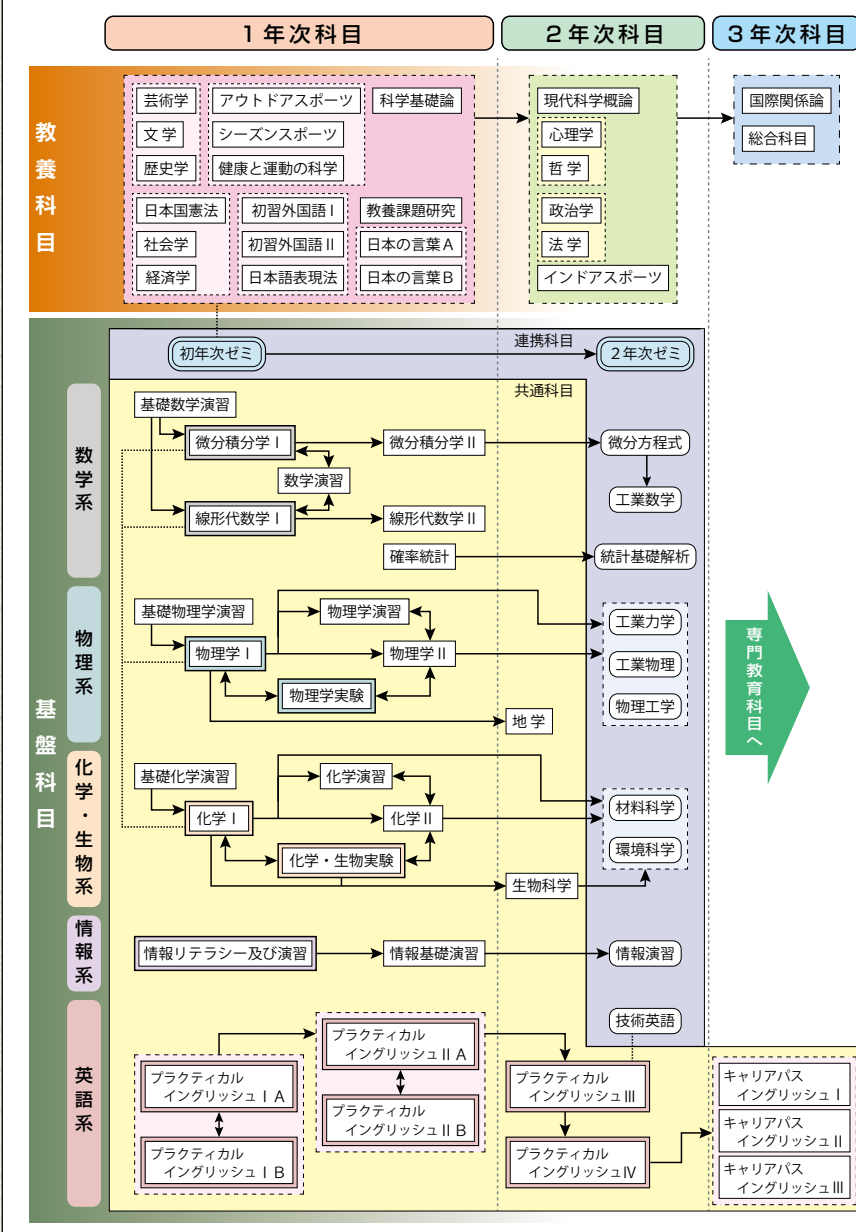
深刻な問題の序章にすぎません。このような状況において、文部科学省から平成24年6月に「大学改革実行プラン」～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～が策定され、多くの大学で教育および学生支援に関する改革が進められています。

この実行プランに出てくるキーワードとして、①大学教育の質的転換と大学入試、②グローバル化人材育成、③地域連携強化、④研究力強化、⑤大学の質保証などが挙げられています。

この実行プランを基軸として、本学部でも大学教育の充実を図るために各学科・系ごとにカリキュラムマップを策定した上で、平成25年度にカリキュラム改訂を行いました。図1に教養・基盤科目の例を示します。このカリキュラム改訂では、初年次教育の充実、教養・基盤科学系教員と各専門学科の教員が連携して行う連携科

目の設置、英語系科目の見直し、生産工学部の特徴である生産工学系科目の充実などが挙げられます。連携科目は全学共通初年次教育を意識

図1 教養・基盤科目のカリキュラムマップ



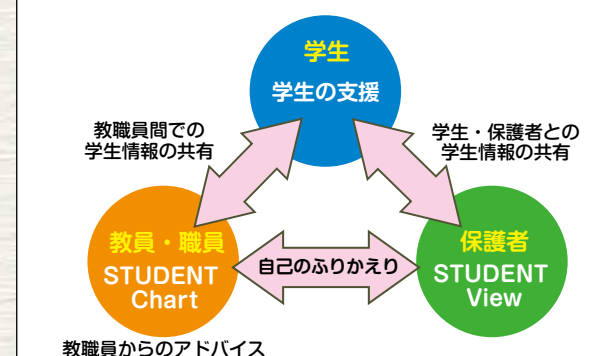
した初年次ゼミ(必修科目)、主体的学習の充実を目的とした2年次ゼミ(必修科目)、基盤科目と専門科目を関連づけたさまざまな科目から構成されています。特に初年次ゼミと2年次ゼミは少人数で行う科目で、今回のカリキュラム改訂の大きな柱であり、この2科目の特色を以下に記します。

初年次ゼミは新入生を対象とした全学共通初年次導入教育として位置づけられており、大学生の基本的な学修の姿勢、自主性の涵養を図ります。具体的には、大学、学部、学科への帰属意識を持たせるための自校教育を基軸として、①教養・基盤科目を学習することの重要性の理解、②学修の目的意識を明確にするための専門教育への導入、③学修のため、または情報発信するための基礎力としての日本語能力の獲得、④与えられた課題について、自主的、自律的に協働して学修する力の養成を目指しています。

一方、2年次ゼミは専門教育への導入授業として位置づけられており、自立的、継続的な学修態度を身につけ、創造力を磨くために、課題を理解し、問題を解決する力を培います。それによって、4年間での学修を有機的に関連づけて理解し、完成させる基礎力が身に付きます。具体的には、①資料の取扱い方法などを通じた課題へのアプローチ方法を考える力の養成、②プレゼンテーション技法の習得、③協働するためのコミュニケーション能力の養成、④作り上げたものを自己評価し、確認する力を高めることを目指しています。

■ 学生の授業への出席状況の把握、出席情報の有効利用、出席管理の効率化を図り、さらには、退学者および卒業延期者の減少を目的として、平成26年度から「出席管理システム」を導入しました。これは、学生が授業開始時にカードリーダーに学生証(非接触型ICカード)をタッチすることにより、自動的に学生の出席状況を把握できるシステムです。このシステムにより、学生自身が自分の出席状況を把握するとともに教員も学生の出席状況を自動的に把握することが出来ます。また、年々、学生の出席状況に関するご父母からの問い合わせが増加しており、学生支援の一環として、今後はインターネットを通じて、ご父母がご子女の出席状況を確認することができるよう計画しております。また、不登校学生を早期に発見できるため、学生が連続して欠席した場合には出席を促すメールの自動配信(学生本人向け、ご父母向け)や、学生指導記録などをシステム化する「学生カルテ」との連動など、一層きめの細かい指導ができるように計画を進めております。図2に上記システムによる学生支援のイメージを示します。

図2 学生支援イメージ図



2013 年就職状況の概要

1. 2013 年度の学部生の就職率

2013 年度の生産工学部の就職率（注）は 94.3% でした。昨年度の就職率 91.4% より 2.9 ポイント上昇しました。厚生労働省と文部科学省が平成 26 年 5 月付けで発表した昨年度の大学生の就職率の全国平均は 94.4% であり、昨年度より 0.5 ポイント上昇したとのことです。

当学部は就職率においてほぼ全国平均ですが、就職率の上昇割合は全国平均を大きく上回っています。近年の学部をあげての就職支援対策や、学部創設以来実施している生産実習（インターンシップ）の地道な成果が就職率上昇の理由だと考えられます。また、生産工学部の男女別の就職率は、男子が 93.9%、女子が 97.6% であり女子の就職率が高い傾向にあります。昨年度の女子の就職率の全国平均が 95.2% であることを考えると、生産工学部の女子学生は積極的に就職活動を行っていると考えられます。男子学生のさらなる奮闘を期待するところです。

2. 生産工学部における就職支援体制

昨年度の就職状況は、就職氷河期と呼ばれていた時期から脱し、その時期に採用を控えていた企業が採用を始めている点で就職には有利な時期に入ったと言われていいます。しかし、各企業とも無条件で採用するわけではありません。就職氷河期以前のバブル景気の時に見られるような就職状況ではなく、優秀な人材、就職してからの成長が見込まれる人材を選別しています。

最近の採用試験は面接重視といわれているものの、面接にたどり着くまでには、エントリーシート・履歴書などによる書類選考、SPI 試験に代表されるテストや適性試験を突破しなければなりません。これらの支援として生産工学部では各種の就職対策講座を実施しています。昨年度も一昨年度に引き続き、公務員試験講座（9 月から実施）、SPI 模擬試験（9 月下旬実施）、SPI 試験対策講座（11 月毎土曜日実施）、エントリーシートの書き方講座（11 月下旬実施）、面接対策講座（12 月中旬実施）を実施しました。2 月上旬には例年開催している就職セミナーも実施しました。各支援対策とも盛況でした。また、各学科独自の会社説明会などの就職支援も実施されており、学生は積極的にそれらを受講していました。

3. 大学院への進学

就職とは別に、大学院への進学を選択した学生も多くいます。

昨年度、本学生産工学研究科への進学率は 10.4% でした。ご存知のように、大学院は研究を自ら遂行することのできる人材を育てる場です。資源の少ない我が国において、技術力は諸外国に対抗する重要な力となることは言うまでもありません。日本企業は海外での仕事も多く、そのような企業で活躍するためには語学のみならず、自ら考え実行できる力と技術力を持っていることが必要です。大学院はそのようなスキルを醸成するための場でもあります。

学生諸君には今後、大学院への進学も視野に入れた就職活動を期待するところです。なお、昨年度の大学院修了者の就職率は 95.1% でした。学部学生よりも早期に内定を決める学生が多く、就職率も高くなっています。社会が求めている人材に合致した結果といえます。

生産工学部では、今後も大学院も含めた就職支援活動を積極的に展開していきます。なお、就職に関してのご質問などは各学科の就職指導委員、または就職指導課へご連絡ください。

.....

（注）就職率の算出方法は文部科学省が実施している「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」に準拠しています。

就職率は、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものと定義されています。

文部科学省から平成 25 年 12 月に出された通知文によると、「就職希望者とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない」と書かれています。

学科ニュース

機械工学科

学外オリエンテーションで修善寺へ

今春、修士 33 名、学士 193 名が卒業されました。機械工学科の就職率は修士 100%、学士 94% と非常に高く、景気回復の兆しが現れはじめています。また、4 月に入ると新しい 1 年生 215 名を機械工学科に迎え入れることができました。今年はとくに、リケジョ人気の影響か 12 名の女子学生が入学し、学科の記録が更新されました。

さて、1 年生は大学生活に慣れる間もなく、学外オリエンテーションで修善寺へ行ってきました。1 日目のラフォーレ修善寺では教員 1 名+学生 8 名のグループに分かれて、限られたヒントを手に敷地の中で宝探しのウォークラリーをしました。2 日目はサイクルスポーツセンターでいろいろな自転車に乗って楽しみました。1泊2日という短い間でしたが、これからの学生生活を共に頑張れる友人ができたことでしょう。

2 年生は、講義に占める専門教育科目の割合が増え、機械工学の基礎知識や設計のための製図などを学んでいます。今年から始まった 2 年次ゼミでは、プレゼンテーション力の養成や各教員による研究紹介が行われ、徐々にエンジニアとしての考え方やモノの捉え方が養われてきています。



3 年生は、プロジェクト・ベースド・ラーニングとして、今年は電動カートおよび風力発電装置の製作を 1 年間にわたって行います。また、夏休みに行われる生産実習（インターンシップ）の準備を進めており、夏休みが明けたころには実社会での就業体験によってエンジニアの卵として成長していることでしょう。最後に、4 年生は毎日研究室にて卒業研究に勤しんでいます。

その他、機械工学科のホームページ (<http://www.me.cit.nihon-u.ac.jp/>) にてさまざまなニュースが紹介されていますので、ご興味のある方はそちらもご覧ください。

電気電子工学科

元教授大谷義彦先生に名誉教授の称号を授与

本年 2 月 7 日の学部長会議で本学科元教授大谷義彦先生に名誉教授の称号が授与されたことが報告されました。

大谷先生は昭和 37 年 10 月 1 日に理工学部副手として勤務されてから 48 年間、昭和 62 年 4 月 1 日に教授を拝命してからも 22 年間の永きにわたり、教育と研究に携わるとともに、本学部と学科の発展のために尽力されました。



平成 26 年 4 月 1 日、准教授 荒巻光利先生と助手 矢澤翔大さんが着任されました

荒巻先生は回路理論Ⅲと実験Ⅴを、矢澤さんは実験Ⅵをご担当されます。詳しくは新任教員紹介のコーナーをご覧ください。

クリエイティブエンジニアコースが JABEE 基準に認定されました

平成 25 年 10 月 20 日、21 日に JABEE の中間審査が行われ、本学科のクリエイティブエンジニアコースが JABEE 基準を満たす教育プログラム（カリキュラム）に引き続き認定されました。

JABEE とは日本技術者教育認定機構の行う教育プログラムの認定制度であり、認定される教育プログラムは世界水準の教育機関であることを認定され、卒業生は、卒業後に申請により技術士補となることができます。今回の認定

で JABEE 認定プログラム名が、現在のコース名と同じクリエイティブエンジニアコースになりました。



土木工学科

学生キャリア支援人材センターの支援を受けた学生支援

「土木工学科学生キャリア支援人材センター」の意見交換会を2014年5月14日に開催しました。この組織は、本学科学生の勉学や就職そしてキャリア教育などを指導する本学科専任教員に対して、支援活動が可能な学外学識者58名で構成されています。当日は、教職員も含めて48名が出席し、学科の近況、生産実習や就職の状況などについての報告や意見交換が活発に行われました。

この意見交換会に先立ち、第一回「教育プログラム評価委員会」を開催しました。この委員会は、マネジメントコースの教育プログラムにおける教育改善活動を客観的に評価・点検する組織です。委員会は、教育プログラム関係者以外で構成される学生キャリア支援人材センターの6名と土木工学科教員6名の計12名で構成されています。

今回は、学科教育プログラムの点検結果、改善検討などに対しての審議が行われ、その評価や意見を基にさらに学科内で改善検討を行うことで、継続的なPDCAサイクルを回してスパイラルアップを図ることが確認されました。

学生のキャリア教育ならびに教育プログラムの改善に向けての活動



6月6日の就職セミナー（環境安全工学科と共催）

4月4日（金）に「土木工学科学生キャリア支援人材センター」のご協力をいただき、3年生と4年生を対象として、「求職活動の在り方と職場で望まれる人物像」と題して中井浩氏（平成4年卒業、東京都庁勤務）と窪井恵氏（平成24年卒業、株式会社メーシック）によるOB講演会を実施しました。土木界の第一線で活躍しているお二人の先輩方の講演に学生は大変興味深く聞き入っていました。

以上のような学生キャリア支援人材センターの支援、ならびに学科独自の就職セミナーの開催（1～2月、6月）により、今年度の就職内定状況は例年以上に順調に推移しています。

建築工学科

学生アイデアコンペで佳作に入選

日本免震構造協会創立20周年記念学生アイデアコンペ「免震・制振はもう古い??～生き延びる建築・街づくり」において本学学部生の金子拓也君、大滝優人君、杉窪宏哉君、叶錦春君（共に藤本研平研究生、応募当時ゼミ生）の作品「HASHIRA HOUSE」が佳作に入選いたしました。



アイデアコンペ表彰状



HASHIRA HOUSE

日本建築学会関東支部研究発表会で若手優秀研究報告賞

2013年度第84回日本建築学会関東支部研究発表会において、長崎透君（藤本研M2）が若手優秀研究報告賞を受賞しました。また、論文「長方形鋼管およびCFT部材の圧縮特性（著者：長崎透、荒井望（共に藤本研M2）、藤本利昭）」、「塗料の水接触角とよごれに関する研究（著者：野地貴史（2014年3月卒業）、松井勇、永井香織）」が「優秀研究報告集」に掲載されることになりました。



若手優秀研究報告賞賞状

応用分子化学科

<入学前説明会>

生産工学部では入学を予定している生徒の自立的な学習を支援することを目的に、さまざまな入学前学習を実施しています。それに加えて3年前から学科の取組みとして、2月下旬に入学前説明会を行っています。本年度の説明会では入学までの最後の1カ月間で取組んで欲しいことを伝えるとともに、施設見学会を実施しました。

<第1回 教職交流会>

応用分子化学科では就職支援を目的に、就職交流会や業界説明会などさまざまな学科独自の活動を行ってきました。

今回、学科在籍学生の約1割が教職課程を履修していることを踏まえ、教員を目指す学生の支援を目的に教職交流会を開催しました。教職交流会は、学習指導要領の変更点などの説明とパネルディスカッションにより構成され、「教員の心構え」や「学生時代にやっておくべきこと」などのテーマについて意見交換がされました。

<学外オリエンテーション>

生産工学部では新入生がスムーズに大学生活に馴染めるように、また、教員と学生とが親睦を深めることを目的に、1年生の4月に学外オリエンテーションを実施しています。本年

度は、①最先端の材料が使われている航空機の整備場見学、②教員と少人数の学生がグループを作り、学生生活に関する話をするグループミーティング、そして③グループで取り組む飯盒炊爨を行いました。普段、料理をしない学生も多いようですが、そこはチームワークで補い、美味しいカレー作りに成功しました。



<社会で活躍する先輩>

工業化学科（現 応用分子化学科）の卒業生である両角正樹氏がキッセイ薬品工業（株）の代表取締役社長に、小野徳哉氏が日水製薬（株）の代表取締役社長執行役員に就任されることになりました。学科一同、心よりお祝い申し上げますとともに、先輩たちに続く卒業生の輩出に努めていきたいと考えております。

マネジメント工学科

順調な3コース体制。さらなる活性化に向けて教員も充実

当学科ではフードマネジメントコースが設置され、ビジネスマネジメントコース、経営システムコースと合わせて3コース体制が順調にスタートしました。

昨年のオープンキャンパスでは、マネジメント工学科の学科紹介や模擬授業が満席になるほどの来場者となり、当学科への入学試験の受験者数も増えました。

本年4月からは、フードマネジメントコースには、フードマネジメント概論などを担当される山本壽夫教授、そして経営システムコースには、人間-機械システムなどを担当される石橋基範准教授と生産管理などを担当される大江秋津助教、またビジネスマネジメントコースには経営戦略などを担当される水上祐治助教が教員に加わりました。今後も、学科の特色をさらに活かして、お互いに力を合わせて、一丸となってマネジメント工学科の活性化へ向けて取り組んで参ります。

また、品質工学などをご担当の矢野耕也教授が、今年度から学科主任に就かれて学科運営を行っています。そして



オープンキャンパスでの学科紹介の様子

多忙な最中ではありますが、7月から9月までは海外派遣制度により、ボストン他、アメリカを中心に研究活動を行います。

さて、当学科の発展に尽力されてきた渡邊昭廣教授が、6月で定年退職を迎えられました。学内では学科主任や担当職などの数々の要職を歴任されました。また、研究では自動化省力化やワークデザインに関する研究を中心に、ご活躍された多くの学会で理事等の役職に就かれております。今後ますますのご活躍をされますようお祈り致します。また長きに渡る学生や教員への温かいご指導を尽くされました事に厚くお礼申し上げます。

数理情報工学科

学部3年生が2件 情報処理学会学生奨励賞を受賞

数理情報工学科では多数の大学院生が学会発表などを行います。2013年11月には兒玉雄祐君と西間木淳君が国際会議 IEEE-WRTL で発表、2014年5月には高橋将平君と山田昂君が ROBOMECH など発表したほか、2014年3月には自動車技術会から鈴木雄祐君が大学院研究奨励賞を受賞、大竹駿希君は日本デジタルゲーム学会から学生奨励賞を受賞



新倉君と仲間たち

するなど、学外でもその成果が評価されています。大学院生が活躍する中、学部生による学会発表も数理情報工学科では積極的にすすめています。



田中君と仲間たち

2014年3月に開催された情報処理学会には3年生が5件の講演を行い、そのうち田中和幸君と新倉春樹君が学生奨励賞を受賞しました。他大学においても学部4年生が学会発表する例は多いのですが、3年生で発表する学生が多い数理情報工学科はいつもひととき目立ちます。

このように、数理情報工学科では学会でも活躍できる学部生を育てて社会に送り出しています。

環境安全工学科

LINCS 導入、 そして就職率 100%を達成

平成25年10月に学科最大のスペースである40号館1階101室大型実験室に「低圧環境共同実験システム (Low-pressure Investigation Cooperation System、通称 LINCS)」(写真) が導入されました。直径3m、奥行き6mの大型容器で大容量真空ポンプを備え、高地環境をはじめとし高高度大気環境、火星大気環境などさまざまな大気環境



低圧環境共同実験システム

を実現できる国内最大級
の多機能型共同利用施設
です。もちろん学生実験
にも使用しています。また、
2期生は公務員試験、大
学院入試へ再挑戦を志す
者6名と諸事情により就職
を希望しない者3名を除き
104名全員が就職先(大学院進学者を含む)を確定し卒業式
を迎えることができました。教員では、神野教授が11月に、
松田教授が2月に、町長教授が3月に相次いでご定年となら



スポーツ大会で総合優勝

れました。3月25日の謝恩会にご出席いただけ、一緒に2期生の卒業を祝うとともに、先生方の長年のご功績に感謝をした次第です。なお小森谷専任講師は海外派遣研究員として UCLA に3月から6か月間の予定で出張されています。

平成26年度も4月に新1年生145名を迎え、学外オリエンテーションとして、山梨県甲府市のメガソーラー発電施設を見学したのち、河口湖畔ではウォークラリーで盛り上がり、翌日は忍野八海を散策しました。新1年生諸君は元気いっぱい、ウォークラリーで優勝して若手教員(大人)の意地を示そうと臨んだ教員選抜チームを4位に沈没させ、その勢いのまま5月17日の学部スポーツ大会で総合優勝(写真)を果たしました。教員は祝勝会をどうするか頭を悩ますことになりました。

創生デザイン学科

木下哲人助教が、「現代工芸新人賞」を受賞しました

創生デザイン学科木下哲人助教は、第53回日本現代工芸美術展(平成26年4月18日(金)～23日(水)、於:東京都美術館、(一社)現代工芸美術家協会主催)に出展した作品「ADAMAS」において、「現代工芸新人賞」を受賞されました。650点の応募の中(審査主任 大樋年郎)、金属部門での受賞者は3名。会員、受賞者の作品は京都、名古屋、新潟、仙台、金沢、富山、静岡、山梨の全国8カ所で展示、発表されました。



受賞式



作品:「ADAMAS」

「ADAMASとはダイヤモンドの語源です。この作品は薄く、比較的安価な金属である鉄でダイヤモンドを表現しています。観た人に、価値観とその存在を考えてもらえれば良いと思います。震災から物の本質や価値観が作品のテーマの一つとなっています。日本大学に赴任して3年目、自身の環境もガラリと変化し、様々な価値観の中、沢山の刺激を受けて生活しています。価値観が固まっていない学生達からも良い刺激をもらい、制作しています。僕からも様々な価値や考え方を与え続けられるように、自身を磨き、社会に作品を発表していきたい。」と語っていました。

「第23回マグネシウムデザインコンテスト」 奨励賞を受賞

一般社団法人日本マグネシウム協会主催、「第23回マグネシウムデザインコンテスト」において、数理情報工学専攻1年(創生デザイン学科卒)の萱野さやかさんが応募した作品「18UP」が制作部門の奨励賞に入賞しました。



ソーラー電動バイク プロジェクト

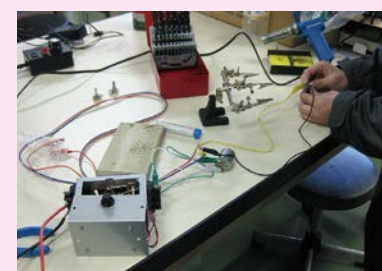
電気自動車や電動バイクが市場に出回るようになり電気を動力源とする乗り物が街中を走る時代が来しました。地球温暖化防止への取り組みで、CO₂の排出規制等が始まり、環境配慮の世の中になりました。これから走行中に排出ガスを出さない電気自動車・バイクの活用はさらに重要性が増しています。インフラの問題もありますが、一回の充電では走行距離が短いのが実情で、ガソリン車と比べるとまだまだ便利とは言えず改良の余地があると言えます。

このプロジェクトでは、ソーラーパネルを取り付けることにより走行距離を延ばし、さらに走行中もソーラーパネルで発電することにより充電時間を短縮することを目標として、活動を開始しました。

市販のスクーターに改良を施し、ホイー

ルインモーターを取り付け、座席下部を加工しバッテリーを収納しました。その後、ソーラーパネル取り付け台の製作などを終え、既製品ならびに自作の電気・電子回路と格闘しながら実研キャンパス内で実験を繰り返しています。それらの作業を通して、学生はプロジェクト管理、機械工作、電気電子工作、プログラミング、デザイン、外部との交渉などさまざまな体験をすることになります。教員としては、そこでの体験をもとに「自ら学び 自ら考え 自ら行動する」学生が育ってくればと切に願っています。

現在、活動できる人員が不足しています。学科・学年は不問ですので、興味のある人はぜひとも三角研究室(Mikado 塾)のドアをノックして下さい。





株式会社メーシック 工事部 入社3年目の 窪井 恵 さん

少子高齢化が進む中、アベノミクス成長戦略の大きな柱の一つでもある女性の社会進出は、大きな流れです。新旧学部長スペシャル対談でも話題に上がっていたように、生産工学部でも「リケジョ（理系女子）」の拡大が大きな課題となっています。今回のゲストは、トレンドの先端を突っ走っている先輩OG、元気でチャームिंगなドボジョ（土木女子）・窪井恵さんです。

経験3年目。土木施工管理技士1級取得に向けて準備万端。子どものころからの夢にむかってまい進中！

現場に出て体を動かしている毎日が楽しい

地下に埋まっている水道管などの工事というと、バックホーなんかを使って穴を掘る開削工法のイメージが強いと思います。うちでは開削工法もやりますが、多いのは非開削工法といって、穴を掘って管を入れ替えるのではなく、例えば老朽化した管の中に新しい管を造ってしまうような工法なんです。下水道管とかNTTの通信管などが対象で、私はおもに下水道管を担当しています。

私自身、水道管の補修などといえば開削とかシールドという意識付けを大学でされていたから、入社したてのころは、掘らないで水道管の補修をするというのでびっくりしましたし、違和感もありました。もう一度、一から学び直すという感じでし

たけど、3年目の今は日々充実しています。もともと、めめしいことをやっているより現場に出て体を動かしているほうが性に合っていますから（笑）。毎日が楽しいです。

土木に入ったのは祖父の薦（とび）の仕事を手伝いたくて

大学で生産工学部、なかでも土木工学科を選んだのは、もともと祖父が薦をやっていて、祖父の仕事を手伝いたいなと思っていました。祖父はめちゃくちゃ頑固で、まさに「ザ・職人」というような人でした。自分でつくった小さな会社をやっていましたので、「いつかはおじいちゃんに仕事をあげられたらいいなあ」とおぼろげに思っていました。

そんなことがあって、大学進学相談で高校の先生に「大きいものを造りたい」と

言ったら、「じゃあ土木だろう」ということで土木工学科に入ることにしました。

大学で取り組んでいたのは、「UFC 合成RC 柱部材の力学特性に関する研究」。簡単に言えば、橋梁の柱などが塩害で腐食したりしますが、それをどうしたらさらに長く使えるように補修するか、というような研究ですね。「UFC 合成RC」とは超高強度繊維補強コンクリートのことで、それを巻けば強度が上がって長く使えますよというようなことで、その実験をやっていました。

学生時代の思い出は、とにかく忙しかったことですかね（笑）。もともと生産工学部は図面やなにやら課題が多いのですが、加えて私は教員免許を取るための授業も受けていましたから、なおさら忙しかったですね。



【PROFILE】

くぼい めぐみ 千葉県出身。25歳。平成20年4月、日本大学入学。同生産工学部土木工学科で橋梁・構造研究室に所属。UFC 合成RC 柱部材の力学特性に関する研究に取り組む。平成24年3月、同学科卒業。同年4月、株式会社メーシック入社。現在は同社工事部に所属、水道管の本管の更生管や取付管の空洞調査や人孔の防蝕被覆などの施工を担当。

大学で学んだこととの違いに戸惑いもあったが…

私が就職活動をしていたのは、震災の前年で“氷河期”と言われていた時期です。ほとんどの業界、業種であまり人を採らない状況でしたね。加えて教育実習もありましたので、就職活動ができなくて、だいが出遅れてしまいました。4年の夏ぐらいに先生に幾つか紹介していただいた中にこの会社がありました。実際に決まったのは4年生の10月ぐらいでしたから、本当に遅かったですね。ほかの人はずっと早くみんな決まっていたけど（笑）。

正直なところ、こういう会社に入るとは想像していませんでした。大きいものを造りたかったので、ゼネコンとか、そういうところに行くもんだと思っていました。私がいたのは橋梁研で、今の仕事はどちらかという環境研にいた人がやるような仕事です。

もちろん長寿命化するという意味では、大学で研究してきたことと同じですが、とにかく非開削で今ある管をそのまま利用してさらに長寿命化を図るという工法に驚きました（笑）。橋梁の場合は、ほとんどがむき出しですから。

そのために使う材料も違って、下水道管では樹脂ですが、私が研究していたのはコンクリートのUFC。そういう部分では大学で学んだことがストレートに生かせるわけではなく、多少の戸惑いはありました。でも、「土木施工管理技士2級」の資格を取る際にいろいろ勉強した中には水道工事に関することも含まれていましたし、その辺は今の仕事に十分生きていると思います。とにかく今はこの会社で仕事ができる良かったと思っています。

女性であることを意識するのは、悔しいけれど仕事。

今、うちの会社で現場に出ている女性は、私一人です。現場へは、少ないときで3人、多いときで8人ぐらいのチームで行きます。

女性が現場に行くと、お手洗いのこととか結構大変なことがあります。そういうことよりも、自分が女性であることを一番意識するのは力仕事のときです。現場ではいろいろ力仕事が多いんです。更生管を造る材料も重いし、荷下ろしも結構大きいものがありますから。とにかく力仕事は男性には敵いません（笑）。先輩たちが助けてくれるので、仕事は大丈夫ですけど、その辺はちょっと悔しいところですね。

だからといって、男だったらよかったのと思ったことはありません。周りの人がみんな優しくしてくれますから、むしろ女性でよかったような気もします（笑）。仕事が仕事ですから、口の悪い先輩もいますからときには罵倒されたりしますが、そういうのはあまり気にしません。自分もそうですが、さっぱりした性格であれば、女性でもこういう仕事が長続きするんじゃないでしょうか。

実際、チームの人と和気あいあい仲良くやれていますし、楽しいですよ。

代理人とはいえ自分の名前で持った初めての現場

今の目標は、土木施工管理技士1級の資格を取って、自分の名前で一本、工事を品質管理から仕上げまで全部やれるようになることです。今持っているのは2級で、1級を取るためには3年の実務経験が必要です。今年が3年目ですから、来年度になれば受験資格が得られます。

もちろん、資格を取ったからといって即できるわけではなく、会社で現場をとっていただかないと無理ですし、難しいところもいろいろありますので、先輩に教えていただきながら頑張っていきたいと思っています。

実は、今年6月から7月にかけて、自分の名前で（代理人主任として）現場を取ってもらって、2級でもできる、主任技術者としての初めての現場を担当しました。

ふと気づいたら、「窪井さんが代理人やるから、書類作って、役所行って出してね」

みたいな（笑）。「ええ、なんのこと？」みたいな流れで始まりました（笑）。

まず、代理人届。誰が代理人で、誰が主任ですよという書類を役所に提出するんですが、それはやったことがなかったので、それだけはほかの人にやってもらい、施工計画書ほかさまざまな書類を作ったり、地元の人に、いついつ工事に入りますので、ご迷惑おかけします、とPRしたり……。そういうのをいちいち先輩や本社の人に教えてもらいながら、何とかやり終えることができました。

それが自分の名前でやった最初の現場です。それまでは現場に行きチームのメンバーの1人として作業しているだけ。チー



ムの一員として指示されてやっているのと、いざ自分が責任者としてやるのでは、まるで違います。その違いの大きさを実感しました。そんな経験をさせてくれた会社にはとても感謝しています。

でも、目標はここではなく、まずはもっと大きな現場も担当できる「土木施工管理技士1級」の資格を取る。そのための一連の流れがつかめて、今やっとスタートラインに立てたという気持ちですね。

【取材後記】

東京・湯島にある(株)メーシック本社にお邪魔してお話を伺いました。窪井さんの明るいキャラクターゆえか、今崎雄司社長以下、社員の皆さんに可愛いがられている様子が、十分にうかがえました。まだまだ数少ないドボジョ。その先駆者の1人でもある窪井さんに目いっぱいエールを送りたくくなりました。

「生産工学部創設 60 周年記念事業募金」寄付者ご芳名

創設 60 周年記念事業募金にご賛同頂き心から感謝申し上げます。

平成 25 年 6 月から平成 26 年 5 月までにご寄付を頂戴した皆様のご芳名を記載させていただきました。

なお、学部広報誌等へのご芳名の掲載を希望されていない方は、記載されておりません。

在学生父母

阿部 好朗	池亀 善紀	石田 優	伊藤 和文	入江 隆浩
榎本 富美子	遠藤 徹	大場 正則	大平 睦子	岡田 貴夫
岡野 政美	小澤 寿仁	加瀬 武	金兵 真人	木村 明美
木村 久男	熊谷 晃	黒木 健次	小池 栄一	小松 裕昭
小見山 正行	佐藤 浩	鮫島 留美	島野 賢司	清水 敦子
庄嶋 健	杉本 眞一	鈴木 薫	鈴木 利文	鈴木 裕己
須藤 初江	高橋 忠浩	高部 伸一	田邊 正博	土屋 幸宏
露崎 正弘	寺崎 治郎	中原 一郎	中森 福夫	二階堂 健
西沼 淳志	野窪 雄治	畠山 勝則	初芝 清	濱口 正英
平井 孝敬	廣瀬 真理子	藤澤 武明	淵上 秀教	船越 徹
本多 行雄	松本 敦司	松本 邦男	村上 功	村上 倫敦
村瀬 さとみ	村瀬 宏規	望月 哲	森 公章	山田 豊
米谷 透	和田 清			

校 友

池澤 昭	入江 勇起夫	草野 栄雄	鈴木 祥訓
------	--------	-------	-------

教職員

青山 定敬	新井 健一	飯田 邦博	飯野 恭司	大熊 康典
加藤 数良	金澤 宏昭	北野 幸樹	後藤 涉	坂本 芳子
高橋 昌之	前田 正博	森崎 真司	師橋 憲貴	山岸 竜治
湯浅 昇	横田 賢司	吉宗 一晃	渡辺 康	

企業・団体

岩崎電気工事(株)	(株)小野サイエンス	(株)教育ソフトウェア	(株)ソフトウェアクレイドル
(株)ディープロ・ケイ	東光電気工事(株)	山物産(株)	(有)石田工業

(敬称略、五十音順)



ラオスの学生と生産工学部の学生との 交流会が催されました。



生産工学部では5月22日(木)にラオスの学生と生産工学部の学生との交流会を催しました。今回の交流会は、政府が進めるアジア太平洋諸国との青少年交流事業「JENESYS 2.0」の一環で行われ、来日したラオスの学生24名は生産工学部の施設見学や、未来工房でものづくり体験をしました。

未来工房では、研磨材の砂を吹き付けて模様を描くサンドブラストという技法でガラス加工などを体験し、参加した生産工学部の学生は、「ラオスの学生は英語を話せない学生が多かったですが、身ぶり手ぶりを交えて意思疎通をすることができました。とても貴重な体験でした。」と笑顔で話しました。



平成 25 年度学位取得者一覧

次の方々が平成 25 年度に博士の学位を取得されました。
今後のご活躍を期待しております。

課程修了によるもの

専 攻	学 位	氏 名	論文題目	学位授与大学	授与年月日
機械工学専攻	博士(工学)	呉 丹	雷撃を受けた CFRP サンドイッチ製風力発電ブレードの構造安全性に関する研究	日本大学	平成 26 年 3 月 25 日
電気電子工学専攻	博士(工学)	矢澤翔大	水素マイクロ波プラズマにより酸素欠損処理された酸化チタン光触媒に関する研究	日本大学	平成 26 年 3 月 25 日
土木工学専攻	博士(工学)	庄嶋芳卓	土質安定処理材としてのフェロニッケルスラグ微粉末の適用に関する研究	日本大学	平成 26 年 3 月 25 日
土木工学専攻	博士(工学)	元 燦豪	道路橋 RC 床版の炭素繊維シート補強法における耐疲労性の評価に関する研究	日本大学	平成 26 年 3 月 25 日
建築工学専攻	博士(工学)	野田りさ	商店街におけるノーマライゼーションに向けた環境づくりに関する研究	日本大学	平成 26 年 3 月 25 日
建築工学専攻	博士(工学)	古橋秀夫	建築の維持管理要素と建築生産プロセスの関係についての基礎的研究	日本大学	平成 26 年 3 月 25 日
応用分子化学専攻	博士(工学)	清水武則	アルツハイマー病診断のための A β 1-42 凝集体の免疫学的評価に関する研究	日本大学	平成 26 年 3 月 25 日
応用分子化学専攻	博士(工学)	小野 剛	高温高圧水中での複合金属酸化物ナノ粒子の合成と粒子生成機構の解明	日本大学	平成 26 年 3 月 25 日

論文提出によるもの

専 攻	学 位	氏 名	論文題目	学位授与大学	授与年月日
土木工学専攻	博士(工学)	山口 晋	シリカフォームを用いたコンクリートのオートクレーブ養生温度の低温化に関する研究	日本大学	平成 25 年 11 月 25 日
建築工学専攻	博士(工学)	縣真之介	伝統的な沿岸域の舟屋集落における漁村住宅の変化に関する研究(漁村社会の変化に伴う水回りにおける住居空間の対応について)	日本大学	平成 26 年 3 月 10 日

新任 教員

紹介

電気電子 工学科

准教授 荒巻 光利
あらまき みつとし



電機メーカーに勤めた後、名古屋大学博士後期課程に入学し博士（工学）を取得しました。その後、名古屋大学で助教として勤め、本年4月より電気電子工学科に准教授として着任しました。

研究テーマは、光を用いたプラズマの高精度制御と測定です。光技術、プラズマ技術とも、先端産業の基盤となる汎用的で重要な技術です。これらの技術を学び、社会に貢献できる技術者・研究者の育成に尽力する所存です。よろしくお願いします。

土木工学科

助 手 中村 倫明
なかむら ともあき



日本大学生産工学部土木工学科を卒業後、日本大学大学院総合科学研究科環境科学専攻を修了し博士（工学）を取得。東電環境エンジニアリング(株)（現：東京パワーテクノロジー(株)）に就職した後、本年度より土木工学科に戻って参りました。

①CO₂の海洋隔離における生物への影響評価予測に関する研究、②ダイオキシン類の海中での挙動予測についての研究、③放射性物質の拡散解析に対する研究が現在の主な研究内容であります。

マネジメント 工学科

准教授 石橋 基範
いしばし もとのり



本年度4月に着任しました。前職のマツダ株式会社では「人にとって使いやすい車作り」を目指して、専門である人間工学・人間機械システムの観点から自動車技術の研究開発に取り組んできました。

製品やサービスがコストではなく価値で勝負するには、それを使う人間の認知・感性・行動の理解がキーの一つとなります。その専門性はもちろん、技術者として大事な論理的思考や仕事の進め方も育成していき、学生の皆さんと一緒に研究に取り組んでいく所存です。よろしくお願いします。

数理情報 工学科

助 教 浦上 大輔
うらがみ だいすけ



「複雑なものを複雑なものとして理解する」。私が専門とする複雑系科学あるいはポスト複雑系科学は、日本では独自の発展をしてきました。世紀はますます（ポスト）複雑系科学のものとなりつつあるようです。例えば、直近の国際的な関心事であるクリミア紛争は、民族という本来的に複雑なものを、国家という単純なものとして理解しようとした結果生じた矛盾ではないでしょうか？ 一方、（ポスト）複雑系科学は、矛盾に至る前の「差異」を肯定することを志向しています。国の名前を冠する大学に着任して、そのようなことを観想しています。

教養・基礎 科学系

助 教 大島 佐知子
おおしま さちこ



本年度4月に教養・基礎科学系の助教として着任いたしました。

授業は物理系の科目を担当しています。また、専門は原子核理論で、最近では核分裂の理論を研究しています。

授業準備や学生からの質問によって、私自身も勉強させられることが多く、懸命に勉強している学生には感謝の毎日です。

今後も学生とともに成長していけるよう努力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

機械工学科

准教授 前田 将克
まえだ まさかつ



大阪大学接合科学研究所から参りました。専門は溶接・接合で、材料を溶融させずに接合する固相接合・低温接合に材料科学的観点から取り組んでおります。

教育においては、学生の知識・経験を積み上げるのはもちろん、それらを柔軟に活用した斬新な着想を求め、さらには専門を異にする幅広い人脈から多様な視点を得られる人材の輩出に結実するよう取り組んで参りたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

電気電子 工学科

助 手 矢澤 翔大
やざわ しょうた



平成26年3月、本学の生産工学研究科博士後期課程電気電子工学専攻を修了し、本年4月より電気電子工学科に助手として着任いたしました。

静電気・光触媒を用いた環境問題の解決に関する研究に取り組んでいます。

社会のニーズとかけ離れることのないよう、教育・研究活動に強い責任感と使命感を持って日々精進していきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

建築工学科

助 手 水野 僚子
みずの りょうこ



平成12年3月に生産工学研究科博士前期課程建築工学専攻を修了し、横須賀市役所で12年勤め、本年4月より建築工学科の助手として着任いたしました。

専門は近代建築史で、歴史的建造物の実測調査など文化遺産に関わる事業に携わってきました。これまでの経験を研究に活かしながら、社会に出て活躍する学生の育成に少しでもお役にたてるよう取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

マネジメント 工学科

助 教 大江 秋津
おおえ あきつ



アクセンチュアに勤務後、筑波大学にて学位を取得し、本年度4月にマネジメント工学科に着任しました。

研究分野は、公開データを用いた統計分析による組織学習研究です。組織が人間のように学習した結果、組織パフォーマンスに与える影響について強い関心があります。学生には研究の面白さと、大学で学んだ知識を実務に生かす方法を伝えたいと考えています。

今後も研究と教育に精進いたしますので、よろしくお願いいたします。

環境安全 工学科

教 授 秋濱 一弘
あきはま かずひろ



平成25年10月より環境安全工学科に教授として着任いたしました秋濱です。

前職は、トヨタグループの(株)豊田中央研究所で、約30年間勤務しておりました。現在54歳です。

専門は、エンジン燃焼、レーザー計測、粒子生成反応などで、煤の出ないクリーンディーゼル燃焼などの研究をしております。

今後は、企業ではなかなかできない「面白いから研究する」テーマにも範囲を広げ、教育と研究の両輪で邁進したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

教養・基礎 科学系

助 教 町田 祐一
まちだ ゆういち



本年4月より教養・基礎科学系の助教として着任いたしました。日本大学第二中学校入学以来、日本大学で育ち、日本大学大学院を修了し、博士（文学）を取得後、日本大学文理学部にて助教として勤務しております。

専門は歴史学、とりわけ日本近現代史を専攻しており、本学における担当科目は主に歴史学です。未来のエンジニアたちに必要な、教養としての歴史を伝えていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

機械工学科

助 手 菅沼 祐介
すがぬま ゆうすけ



平成19年3月に本学生産工学研究課博士前期課程を修了し、(株)IHIエアロスペースでの勤務を経て、本年4月に機械工学科の助手として着任しました。

専門は燃焼工学で、噴霧燃焼メカニズムの解明を目指した、燃料液滴列燃焼に関する研究を行っています。

学生の皆さんには、生産工学部の学生であること誇りに思ってもらえるように、教育と研究活動に尽力したいと考えております。よろしくお願いいたします

土木工学科

教 授 木下 誠也
きのした せいや



3月に愛媛大学防災情報研究センターを退任し、4月に生産工学部土木工学科に着任いたしました。

愛媛大学に3年4カ月おりましたが、その前は31年間、建設省および国土交通省においてインフラ整備の実務に携わっておりました。専門は、建設マネジメント、社会資本の整備・管理、河川・水資源の計画・管理、防災・危機管理です。

実務経験を踏まえた実践的な研究・教育に努めたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

マネジメント 工学科

教 授 山本 壽夫
やまもと ひさお



企業そして他大学を経て、本年4月にマネジメント工学科に着任いたしました。

専門分野は経営学です。現在、複数の分野を横断する複合領域を研究対象としております。例えば、組織・システム（企業・都市など）の進化を誘導する超域マネジメントの研究などです。

学生の皆さんが、専門性や幅広い知識を身に着け、さらに、独創力、創造力、判断力などを養い、社会で活躍できる人材として成長するための教育・研究を推進する所存です。よろしくお願いいたします。

マネジメント 工学科

助 教 水上 佑治
みずかみ ゆうじ



本年4月よりマネジメント工学科に助教として着任いたしました。それまでは、外資系音響機器メーカーで製品開発組織のマネジメントをするかたわら、青山学院大学にて研究員をしておりました。専門は、経営管理学で、製品開発プロセスの改善と情報共有の促進を中心に方法論の開発と応用に取り組んでいます。担当授業は、経営戦略、プロジェクトマネジメントなどです。

伝統あるマネジメント工学科で学生と共に研究・教育に精進していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

創生デザイン 学科

助 手 野田 りさ
のだ りさ



平成26年3月に本学生産工学研究科建築工学専攻 博士後期課程を修了し、4月から創生デザイン学科の助手に着任いたしました。生活空間デザインを研究分野とし、特にバリアフリーやユニバーサルデザインに関連する研究や福祉の環境に関する研究を行っています。

本学で学んだ知識と培った経験を生かして教育・研究活動に取り組んでまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

教養・基礎 科学系

助 教 成田 広樹
なりた ひろき



ハーバード大学言語学科にて博士号を取得した後、早稲田大学高等研究所での業務を経て、本年4月より教養・基礎科学系に助教として赴任いたしました。

専門は理論言語学、特に日英語比較を中心とした諸言語の文法・句構造分析に関する研究活動を行っています。

人間のことばの不思議や面白さを、学生の皆様とともに考えていく機会を持てることを、心より楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

第7回 風力発電コンペ WINCOM2014 開催

生産工学部は本年度も「ものづくりの楽しさ」と「環境に優しい風車発電機の性能」を自転車発電機で競う「第7回風力発電コンペ WINCOM2014」を11月に開催します。

優秀賞やアイデア、デザイン賞など多数の賞も用意しています。
「高校生グループまたは個人」の応募には出身校の後輩への勧誘を、オープン参加の「大学生や社会人のグループまたは個人」に在校生の皆さんの参加をお待ちしております。

開催日：平成26年11月2日(日)
会場：生産工学部津田沼校舎
エントリー期間：平成26年7月14日(月)～9月19日(金)
参加最大50チームを募集中!!

応募要項は
<http://www.cit.nihon-u.ac.jp/wincom/> に掲載されています。未来工房を活用して夢あふれる風力発電システムでエントリーください。

主催：日本大学生産工学部
後援：日本大学生産工学部校友会、日本風力エネルギー学会、日本機械学会関東支部千葉県ブロック、千葉県教育委員会
開催日：平成26年11月2日(日)、搬入日11月1日(土)
問合せ先：日本大学生産工学部第7回風力発電コンペ2014事務局
TEL/FAX 047-474-2461 Eメール：cit.wincom@nihon-u.ac.jp



再生可能エネルギーに関心ある学生や近隣の皆さんの出展とコンペ会場で応援を歓迎します。

第37回 鳥人間コンテスト選手権大会

今年も津田沼航空研究会が
滑空部門に出場決定!

開催日：7月26日(土)・27日(日)
開催場所：琵琶湖松原水泳場
大会主催：読売テレビ
<http://www.ytv.co.jp/birdman/>

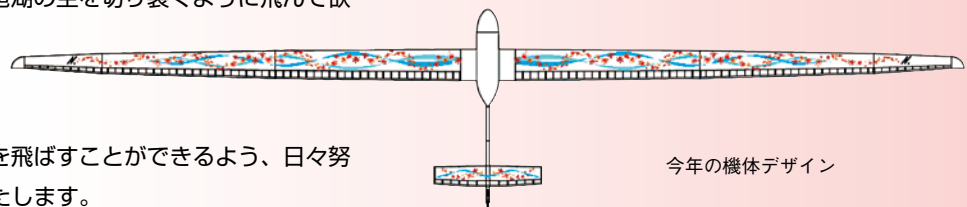
書類審査の難関をクリアし、7大会連続で今年も鳥人間コンテスト選手権大会の滑空部門への出場が決定しました!

今年の機体名は「秋水(しゅうすい)」です。秋水とは曇りのない、よく研ぎ澄まされた刀という意味があり、琵琶湖の空を切り裂くように飛んで欲しいという思いを込めてつけました。

私たち、津田沼航空研究会は今までに先輩方から受け継いできた技術を出しきり、大会で一番研ぎ澄まされた機体を飛ばすことができるよう、日々努力していきます。ぜひ、応援をお願いいたします。



主翼のリブ製作に取り組む部員たち



今年の機体デザイン

平成26年度後期行事予定

行 事	2～4 年次：津田沼校舎	1 年次：実籾校舎	大学院	備 考
A O 入 学 試 験	9月13日(土)・14日(日)			
後 期 ガ イ ダ ン ス	9月19日(金)※応用分子化学科1・2・3年のみ9/18(木)・19(金)		9月19日(金)	
後 期 授 業 開 始	9月22日(月) ※9/23(火・祝)、10/13(月・祝)、11/24(月・祝振)は授業日			
卒 業 式・学 位 授 与 式(9 月)	9月25日(木)		9月25日(木)	
父 母 懇 談 会	9月27日(土) 津田沼校舎			
創 立 記 念 日	10月4日(土)			休 校
編 入 学 試 験(2 年次・3 年次)	10月11日(土)			
外 国 人 留 学 生 入 学 試 験	10月11日(土)			
帰 国 生 入 学 試 験	10月11日(土)			
校 友 子 女 入 学 試 験	10月11日(土)			
父 母 懇 談 会	10月25日(土) 地方別実施			
学 部 祭 (桜 泉 祭)	11月2日(日)・3日(月・祝)			11/1 準備日・11/4 片付日
オ ー プ ン ラ ボ	11月2日(日)			
指 定 校 制 推 薦 入 学 試 験	11月15日(土)			
提 携 校 推 薦 入 学 試 験	11月15日(土)			
保 健 体 育 審 議 会 推 薦 入 学 試 験	11月15日(土)			
ト ッ プ ア ス リ ー ト 推 薦 入 学 試 験	11月15日(土)			
付 属 高 等 学 校 等 推 薦 入 学 試 験(B 方 式)	11月15日(土)			
博 士 論 文 提 出 期 日			11月21日(金)	
学 術 講 演 会	12月6日(土)			
公 募 制 推 薦 入 学 試 験	12月13日(土)			
付 属 高 等 学 校 等 推 薦 入 学 試 験(A 方 式)	12月13日(土)			
冬 季 休 業	12月24日(水)～1月8日(木)			
後 期 授 業 終 了	1月30日(金)			学部：12/20、1/10、28、29は授業予備日
補 講	土曜日適宜実施			
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験(C 方 式)	1月17日(土)・18日(日)			
修 士 論 文 概 要(初 稿) 提 出 期 日			1月22日(木)	
一 般 入 学 試 験	N 1 方 式	2月1日(日)		
	A 1 方 式	2月2日(月)		
	A 2 方 式	2月9日(月)		
	A 3 方 式	2月19日(木)		
修 士 論 文 提 出 期 日			2月23日(月)	
転 科 試 験(2 年 次)	3月2日(月)			
大 学 院 入 学 試 験(第 2 期)			3月7日(土)	
卒 業 式・学 位 授 与 式	3月25日(水)		3月25日(水)	日本武道館

個人情報の取扱い告知文

入学手続き時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報は、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。

また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

(問合せ先) 生産工学部教務課・学生課

平成 26 年度日本大学生産工学部スポーツ大会が開催されました。



1 位優勝の環境安全工学科の代表学生



新調したお揃いの運営スタッフのＴシャツ



建築工学科もＴシャツを作りました



学科の枠を越え、学生同志や教職員との交流を深める目的で、毎年春に行われる「スポーツ大会」が今年も実習キャンパスで開催されました。午前の部は学科対抗競技で盛り上がり、午後の部ではエントリーによるオープン競技で白熱した光景が見受けられました。なお、学科対抗競技では、環境安全工学科が優勝しました。

スプリング SPRING No.103

(日本大学生産工学部だより)

平成 26 年 8 月 1 日発行

編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記をお願いします。

〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課

電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432

E-mail : cit.info.shomu@nihon-u.ac.jp

http://www.cit.nihon-u.ac.jp/

SPRING

No.103

日本大学生産工学部

2014 年 8 月 1 日発行

□新学部長就任あいさつ

生産工学部らしさの創造と実践

■特集 新旧学部長スペシャル対談

■「初年次・2 年次ゼミ」、「出席管理システム」

■2013 年度就職状況の概要

■学科ニュース

■連載 卒業生インタビュー

(株)メーシック工務部 窪井 恵さん

■「生産工学部創設 60 周年記念事業募金」寄付者ご芳名

■CAMPUS NEWS

■平成 25 年度学位取得者一覧

■新任教員紹介

■CAMPUS EVENT NEWS

■平成 26 年度行事予定 (後期)

